

二度目の旅

聖学院高等学校

タン...タン。

列車はジャズのようなリズムで進む。私は車窓から青空を見上げた。あの日の空は曇っていた。2024年1月1日、突き上げる揺れが能登を襲った。「この列車は、ここで運転を取りやめます！」

車内は混乱に包まれた。縦横に揺れた車内。見えるのは倒壊する能登瓦の屋根。目に映る思い出の町ががらがらと崩れゆく。冷たい風に震えながら避難所へ向かった。おかんの昔言ってくれた言葉が思い出された。「寒い時にゃ厚着せんとだめやで」そういえば和倉は、あの温泉街はどうなっているだろうか。

「まもなく終着、和倉温泉です」開いた扉から暖かい風が吹く。かすかに硫黄の匂いが薫る。浴衣姿の旅人、温泉でくつろいでいたであろう家族連れ、能登ミルクの店の行列、かつておかと歩いた通り、お客を招く人たちの声や瞳に未来への希望を感じた。

私は墓前でそっと手を合わせる。

おかんの好きな温泉、今年は元気やったよ。来年も、楽しみやな。